

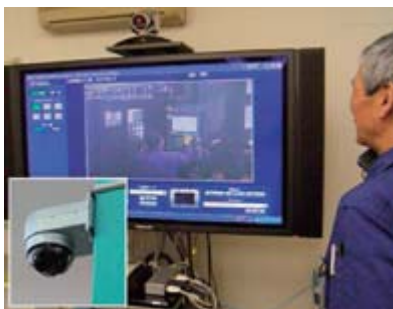
技能継承の仕組みを構築

技能承継の仕組みを構築し、安定した経営基盤を確立した企業

大阪府東大阪市の株式会社松野金型製作所(従業員48名、資本金1,000万円)は、携帯電話等のプラスチック金型を製造する企業である。同社は、アジアでは難しいとされる精度5マイクロメートル程度の精密部品金型を得意としており、技術力の高さには定評がある。

一般的に金型技術は、職人技に依存しがちであり、技能承継が難しいといわれているが、同社は一定の生産規模を維持しながら最新の生産設備を整えることで、金型製造の工程ごとに複数人の職人を抱えつつ、職人の技能を磨く機会を確保してきた。そして、管理職になるためには自分と同程度の技術を持つ人材を1名、経営幹部になるためには自分と同程度の技術力を持つ人材を複数名育成することを昇格の要件とし、まず社員が自らの技術を磨き、そしてその技術で若手社員を教育する仕組みを構築した。現在では、役職が高まるにつれて、本人の技能から人材教育の能力がより重視される意識が浸透し、積極的に部下を育てようとする動きが社内で自然に起きるといふ。

同社の松野行秀社長は、「将来は金型職人の教育に従事したい。2008年に設立した九州工場では、高精細ネットワークカメラを導入し、5 マイクロメートルの精度にこだわる職人技を伝えることで、技術やノウハウを共有している。いずれは国外の技術者にも、こうしたIT技術を使って日本人の技術を伝えていきたい。」と抱負を語る。



高精細ネットワークカメラを使った技術指導